

講師・立津 央

熊本大学病院 血液内科学

▶ 研究内容

【背景・目的】

骨髄異形成症候群 (myelodysplastic syndrome: MDS) は、造血細胞の異常な増殖とアポトーシスによる細胞死によって特徴づけられる多様に富んだ**難治性疾患**であり、白血病の前癌状態でもある。MDSの患者骨髄細胞において**SALL4が高発現**しており、SALL4のトランスジェニックマウスは**MDSを発症**することが報告されている。我々は、様々な解析により、多くのMDS患者骨髄細胞で、タンパクレベルにおいてもSALL4が高発現していることを確認しており、MDSにおけるSALL4の解析を進めることで、SALL4が、治療のターゲットになりうるかを明らかにする。

【研究概要】

~研究データ概要①~

- SALL4遺伝子構造とアイソフォーム
- MDS患者骨髄細胞におけるSALL4の発現
- MDS患者における造血幹細胞、前駆細胞内SALL4タンパク発現量

MDS患者で正常骨髄と比較し、**SALL4Aの発現上昇**がみられた。
また、多くのMDS患者で、造血幹細胞、前駆細胞にてSALL4が高発現していた。

~研究データ概要②~

- SALL4陽性・陰性細胞における各タンパクの発現
- SALL4陽性・陰性細胞集団におけるp53の発現

各細胞内シグナルの発現上昇を確認し、**SALL4とp53の関連性**が示唆された。

▶ アピールポイント

- 多発性異形成症候群とSALL4のメカニズム解明
- 国際交流及び熊本大学による臨床検体の充実

▶ 参考資料

• Tatetsu H et al., Gene 584 (2016) 111–119
• Tatetsu H et al., Blood (2020) 136 (Supplement 1) : 34

▶ キーワード

骨髄異形成症候群 白血病 SALL4 p53 myelodysplastic syndrome leukemia 医歯薬学領域 内科系臨床医学 血液内科学
